

護衛艦「たかなみ」一般公開 in 川崎港

自衛隊神奈川地方協力本部（本部長 兼本 貢祐一海佐）は10月6日（土）、10月7日（日）の2日間、川崎港（川崎市川崎区東扇島）にて、川崎みなと祭りに併せ、護衛艦「たかなみ」の一般公開及び募集広報を実施した。2日間で7,423名もの来場者が訪れ、中学生以上の募集対象者に対し実施した特別公開には296名が参加した。艦内ではスタンブラリーを実施し、スタンプを全て集めた小学生にオリジナルグッズを配布した。初日、入口ゲートに待機していた人から「昨年引き続き『たかなみ』の一般公開に来たのよ」「親戚が元海上自衛官なので、自衛隊に興味湧き『たかなみ』の写真を撮りに来ました」等の嬉しい声を掛けてもらった。川崎港に護衛艦が入港するのは2回目であるが、イベントが定着してきたと実感した。

2日目は、日曜日という事も多く多くの親子連れが来場した。待ちくたびれた顔をしていた人も『たかなみ』乗組員に笑顔で挨拶されると「行ってきま〜す」と楽しそうに返答しており、炎天下の中ではあったが、乗艦する時にはみんな笑顔になっていた。

見学を終え、「たかなみ」の出口でセーラー服を着た乗組員と慣れない敬礼で一生涯懸命挨拶を交わすお子さんがとても印象的であった。

会場出口付近では「野外炊具1号」と「3ター/2トラック」の装備品展示が行われており、トラックの荷台に上がって車内を探索、野外炊具車では荷台に上って調理器具をじっくり見たり、お子さんに限らず大人の方もとても楽しそうに過ごしていた。

神奈川地本は「今後も募集対象者のみならず、部外の方へ向け一般公開や装備品展示等のイベントを通して自衛隊の魅力をアピールする広報活動に努めていきたい」としている。



野外炊具1号に興味津々！



待ちに待った「たかなみ」に乗艦！



「たかなみ」から見える景色堪能中

第6回「ぷちなでしこ」支援

自衛隊神奈川地方協力本部平塚地域事務所（所長 小田桐一陸尉）は10月14日（日）、第6回「ぷちなでしこ」の支援を実施した。

2012年から開催されている「ぷちなでしこ」は、平塚市なでしこ地区の人たちが運営する、平塚市立なでしこ小学校の生徒を対象とし、様々な仕事を体験することで、お金の使い方や社会の仕組みを学ぶイベントである。

当日は100名以上の生徒や保護者が集まり、各職業体験ブース（警察署・消防署をはじめ、飲食店や小売販売業等）はとても賑わっていた。

自衛隊コーナーでは、職業体験として基本教練及びロープワークを実施し、約40名の小学生が参加してくれた。保護者が見守る中、陸上自衛隊と航空自衛隊のちびっこ迷彩服を着用した小学生が隊員の説明を真剣に聴く姿がとても印象的であった。

参加した小学生の中には「ロープの結び方が最初はわからなかったけど、丁寧に教えてくれたのでとても上手に結べて良かった。家でまた練習します」「敬礼がちゃんと出来て、格好いい！ってお父さんやお母さんに言ってもらえた」等の声が聞かれた。

平塚地域事務所では、「今後も積極的にイベントへ参加し、小学生のうちから自衛隊に関心を持ってもらい、将来自衛隊へ志願してもらえよう地域に密着した募集広報に努めていく」としている。

平塚地域事務所では、「今後も積極的にイベントへ参加し、小学生のうちから自衛隊に関心を持ってもらい、将来自衛隊へ志願してもらえよう地域に密着した募集広報に努めていく」としている。



隊員の説明を聞いている参加者達の様子